

環境経営レポート

2025年度

2025年1月～12月



やまと工業 株式会社

2026年4月17日発行

目次

組織概要	1ページ
事業の規模	1ページ
会社組織図	2ページ
環境方針	3ページ
環境目標とその実績	4ページ
主要な活動計画の内容	4ページ
環境活動の取組結果の評価	5ページ
環境関連法規への違反、訴訟等の有無	10ページ

組織概要

[事業者名] やまと工業 株式会社

[代表者名] 代表取締役 村田 俊一

[所在地]

・本社工場

・栃木工場



〒252-0816
床面積 1,328㎡

神奈川県藤沢市遠藤2002-4 〒322-0026 栃木県鹿沼市茂呂781-9
床面積 858㎡

[事業内容] 自動車、電機製品、OA機器他各種金属製ばね製造



認証登録範囲

全事業所及び事業内容が認証登録範囲

[環境管理責任者]

本社工場

柴田 隆行

TEL 0466-88-2611 FAX 0466-88-2255

栃木工場

大橋 秀利

TEL 0289-76-6111 FAX 0289-76-6112

事業の規模

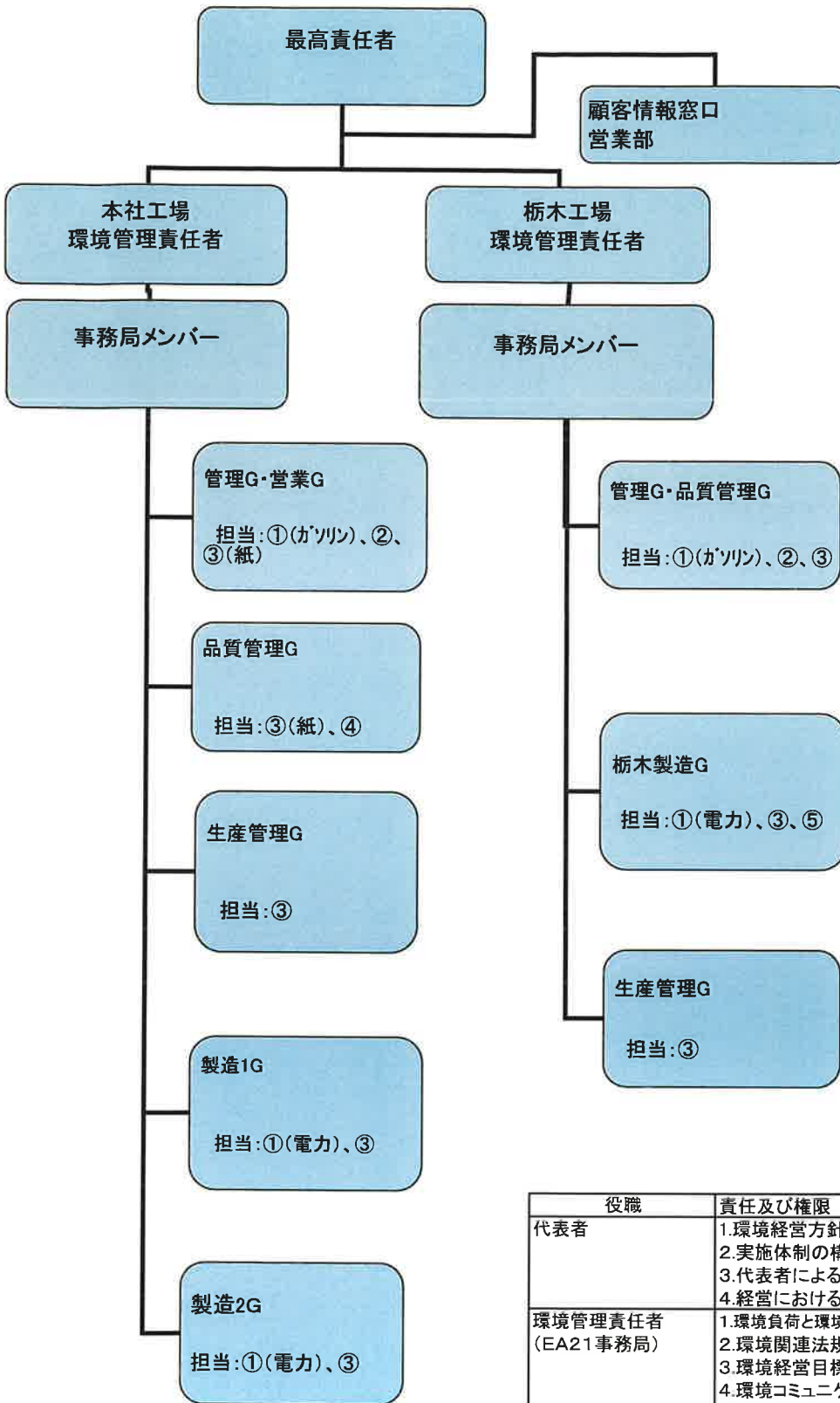
設立 1948年3月

資本金

5,000万円

活動規模	単位	2023年	2024年	2025年
主要製品生産量	t	205	179	200
売上高(税抜き)	百万円	925	710	814
従業員	本社工場	30	27	23
	栃木工場	12	12	12

エコアクション21 環境活動組織表



☆環境活動担当☆

- ①二酸化炭素排出量の削減
- ②水使用量の削減
- ③産業廃棄物、一般廃棄物の削減
- ④環境に関する法令遵守
- ⑤化学物質使用量削減

役職	責任及び権限
代表者	1.環境経営方針の作成(要求事項3) 2.実施体制の構築(要求事項7) 3.代表者による全体の評価と見直し(要求事項14) 4.経営における課題とチャンスの明確化(要求事項2)
環境管理責任者 (EA21事務局)	1.環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項4:事務局担当) 2.環境関連法規等の取りまとめ(要求事項5:事務局担当) 3.環境経営目標及び環境活動計画の策定(要求事項6) 4.環境コミュニケーション(要求事項9) 5.取組状況の確認及び問題の是正(要求事項13) 6.環境関連文書及び記録の作成・整理(要求事項12:事務局担当) 7.環境関連法規等遵法の確認(要求事項5:事務局担当)
部門責任者	1.教育・訓練の実施(要求事項8) 2.実施及び運用(要求事項10) 3.環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項11) 4.顧客要求事項の調査(製品環境影響物質)

環境経営方針



〈環境経営方針〉

やまと工業株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で環境の保全に配慮し、行動する。

基本方針

1. 当社の生産活動・運営に関係する環境関連法令及び顧客要求事項を遵守すると共に地域環境の向上に努めます。
 - イ) 顧客へ納入する製品の製品環境影響物質を管理します。
 - ロ) 化学物質の使用量を削減します。
2. 当社の生産活動・運営の全分野で、汚染防止、廃棄物の削減、リサイクル化の推進、省エネルギーを重点とした下記項目について継続的な改善を進めます。
 - イ) 事業設備及び事務所に係わる天然資源を有効に活用し、二酸化炭素排出量及び排水量の削減に努めます。
 - ロ) 廃棄物の分別適正処理を行うと共に製造段階での工程廃棄物及び不良発生抑制に努めます。
 - ハ) 会社敷地内及び地域遊歩道の美化の推進に努めます。
3. 環境教育、社内広報活動などを実施し、全社員及び全取引先の環境基本方針の理解と環境に関する意識向上に努めます。
 - イ) 内部環境監査(5Sパトロール等)を実施し、自主管理による環境マネジメントシステムの維持向上に努めます。
 - ロ) 環境方針は全ての社員に周知すると共に、社内外の求めに応じて公表します。

制定日 2009年1月5日

改定日 2018年1月9日

やまと工業株式会社

発行者 : 代表取締役 村田 俊一

環境目標とその実績

実施項目	2024年基準		2025年 目標	2025年 実績	評価	3年中期目標					
	売上高 710.2 百万円	基準値				2026年	2027年	2028年			
	使用量及び廃棄量実績										
法規制の遵守 法令違反		0件	0件	0件	100%	○	0件	0件	0件		
製品環境影響物質の管理 環境影響物質の発生		0件	0件	0件	100%	○	0件	0件	0件		
Co2削減	電力 kWh/売上百万円	450,833 kWh	634.8	622.10	2%	575.47	108%	○	2%	2%	2%
	化石燃料 L/売上百万円	15,657.64 L	22.05	21.61	2%	18.21	119%	○	2%	2%	2%
	CO2換算 kg-Co2/売上百万円	257,045 kg-Co2	361.93	354.69	2%	324.03	109%	○	2%	2%	2%
製品への 環境配慮	材料 パネ材 kg/売上百万円	7,446 kg	11.88	11.64	2%	6.22	187%	○	2%	2%	2%
	鋼線 kg/売上百万円	437 kg	50.81	49.79	2%	11.18	445%	○	2%	2%	2%
廃棄物 削減	プラ・ビニール kg/売上百万円	684.7 kg	0.9641	0.954	1%	1.123	85%	×	1%	1%	1%
	木くず kg/売上百万円	432 kg	0.6083	0.602	1%	1.061	57%	×	1%	1%	1%
	一般ゴミ kg/売上百万円	2,331.0 kg	3.28	3.25	1%	3.19	102%	○	1%	1%	1%
水使用量削減	m ³	492 m ³		基準年維持		470.00	105%	○	0%	0%	0%
5Sパトロールの実施		毎月実施		毎月実施		毎月実施		○	毎月	毎月	毎月
敷地内及び周辺道路美化活動		毎週実施		毎週実施		毎週実施		○	毎週	毎週	毎週
環境教育の実施		計画による実施		計画による実施		計画による実施		○	計画による実施	計画による実施	計画による実施

※電力の二酸化炭素排出係数は0.475にて計算。 2025年 Co2総排出量 263,763 kg-Co2 売上高 814百万円

主要な環境活動計画の内容

1. Co2排出量の削減

1) 電力使用量削減

- ・生産設備及び照明の未使用時電源OFFの徹底。
- ・エアコンの温度管理(夏28℃・冬20℃)
- ・照明のLED化
- ・老朽化エアコンの入替

2) 化石燃料使用量削減

- ・エコドライブの実施。
- ・月に1度のタイヤの空気圧チェック実施。
- ・納入頻度・営業ルートの見直し
- ・古い社用車の入替検討

2. 製品及びサービスに関する環境目標

- ・品質改善・不良率低減による材料スクラップの削減。

3. 廃棄物の削減

- ・梱包用ビニール袋、ダンボールの再利用の実施。
- ・仕入先へのダンボール、パレットの返却。
- ・コピー用紙の裏面使用。
- ・材料用巻紙の仕入先への返却
- ・ダンボール、紙ごみのリサイクル

4. 水使用量の削減

- ・節水ステッカーの表示。
- ・6ヶ月ごとの漏水の点検。
- ・トイレのタンク内にペットボトルを入れての節水。
- ・節水コマ取付

5. 化学物質の削減

- ・化学物質の適正管理

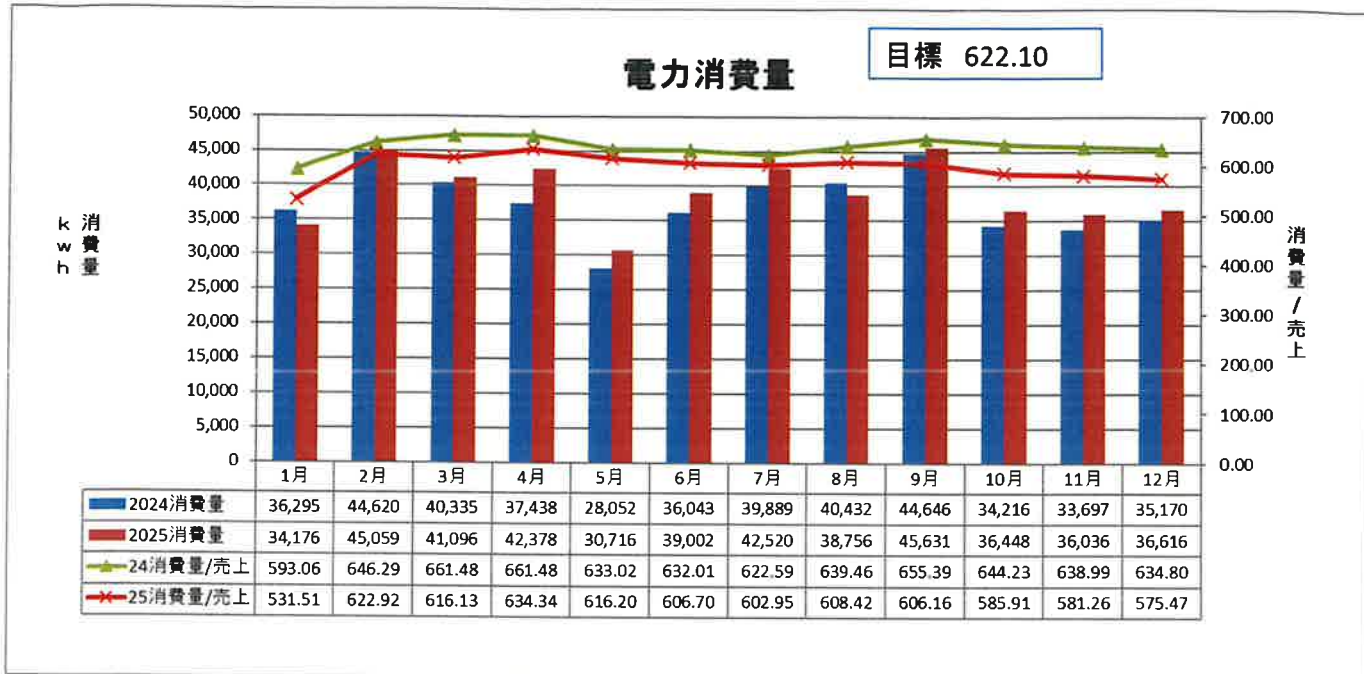
6. その他

- ・月に1度の5Sパトロールの実施。
- ・毎週の敷地内及び周辺道路の清掃の実施。

環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

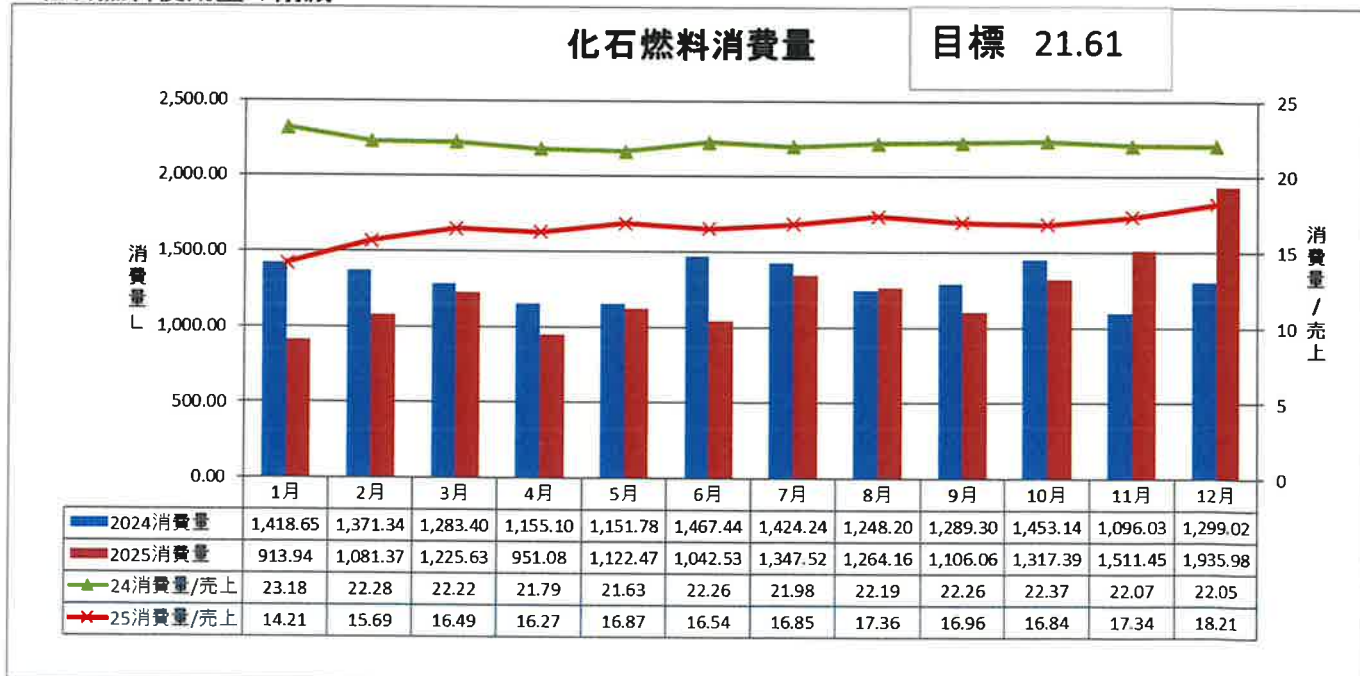
※目標とする原単位は累計で表示

1. 電力使用量の削減



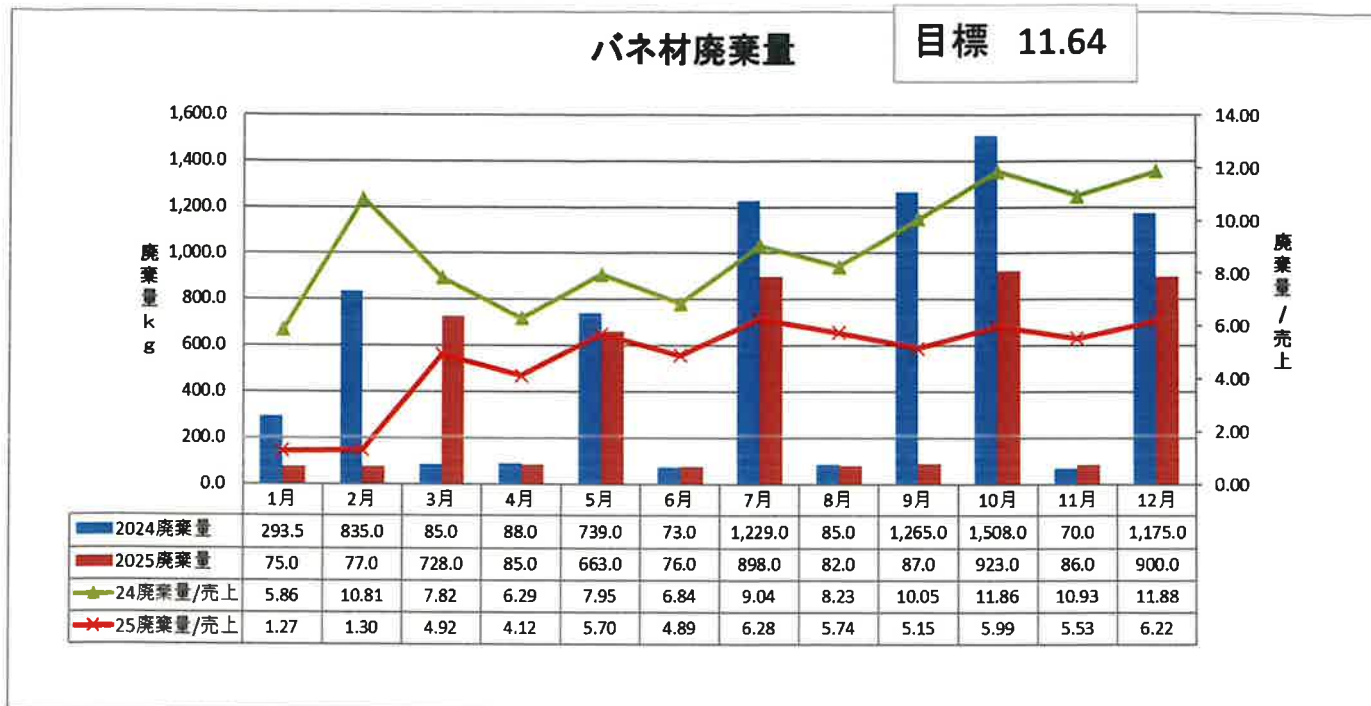
- ・2024年の電力使用量450,833kwhに対し、2025年の電力使用量は468,434kwhと増加した。生産が増加したこともあり、電力使用量も増加したものと考えられる。ただ、電力の使用量の増加より売上の増加幅が大きく、目標は達成。
- ・2026年も引き続き、作業効率の向上や品質改善により作り直し等による無駄な電力の使用を抑えるようにしたいと思う。まだ照明をLEDに変えていない箇所があるので、少しずつでも進めていく。

2. 化石燃料使用量の削減

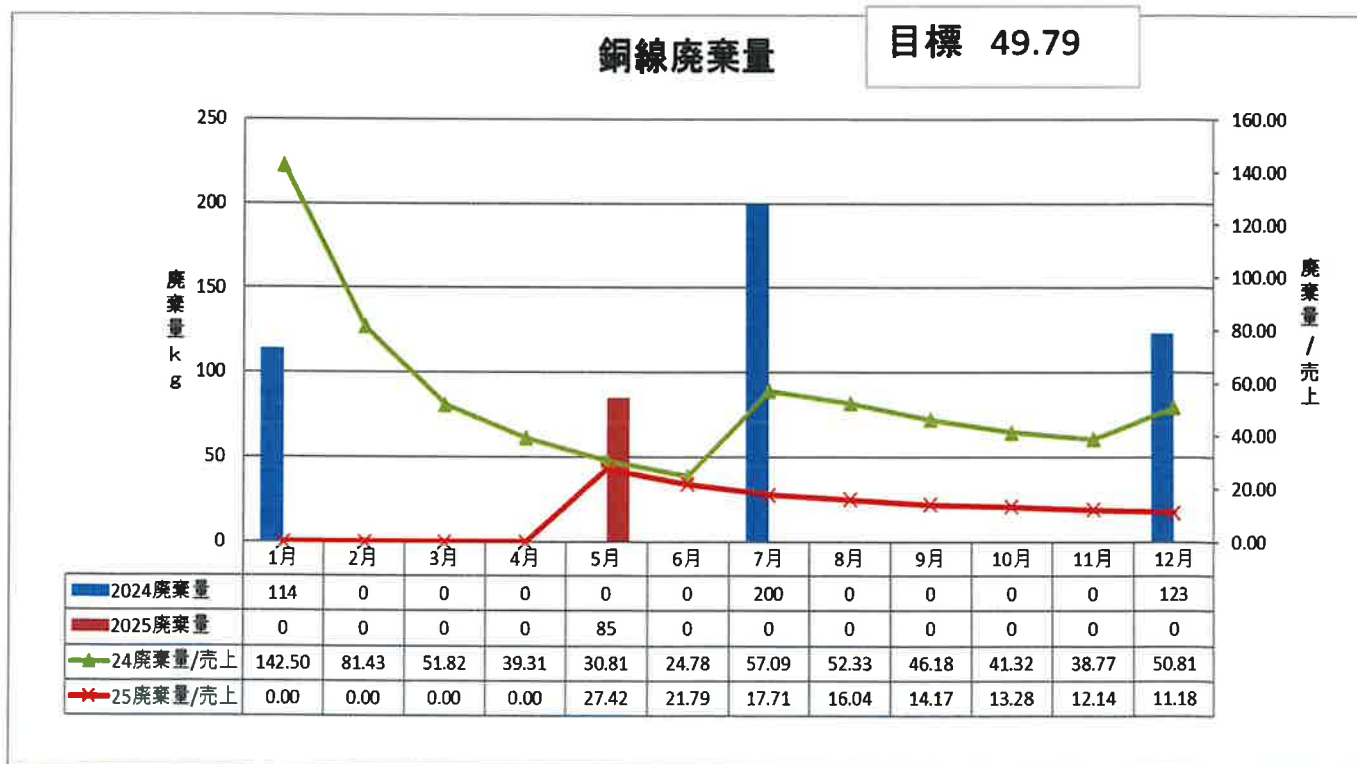


- ・2024年の化石燃料使用量15,658ℓに対し、2025年の化石燃料使用量は14,820ℓと減少した。納入頻度の見直しや少量の場合は宅急便を使用するなどの効果がでている。11月以降前年よりも増えているのは経費削減のため本社・栃木工場間の製品の運搬を自社便に変えたためである。
- ・2026年も納入頻度やルートの見直しをし、使用料の削減に努める。また、品質を改善し、クレーム対応等の本来不要な外出を無くすようにする。燃費の良い車への入替も検討する。

3.製品及びサービスに関する環境目標(材料スクラップの削減)

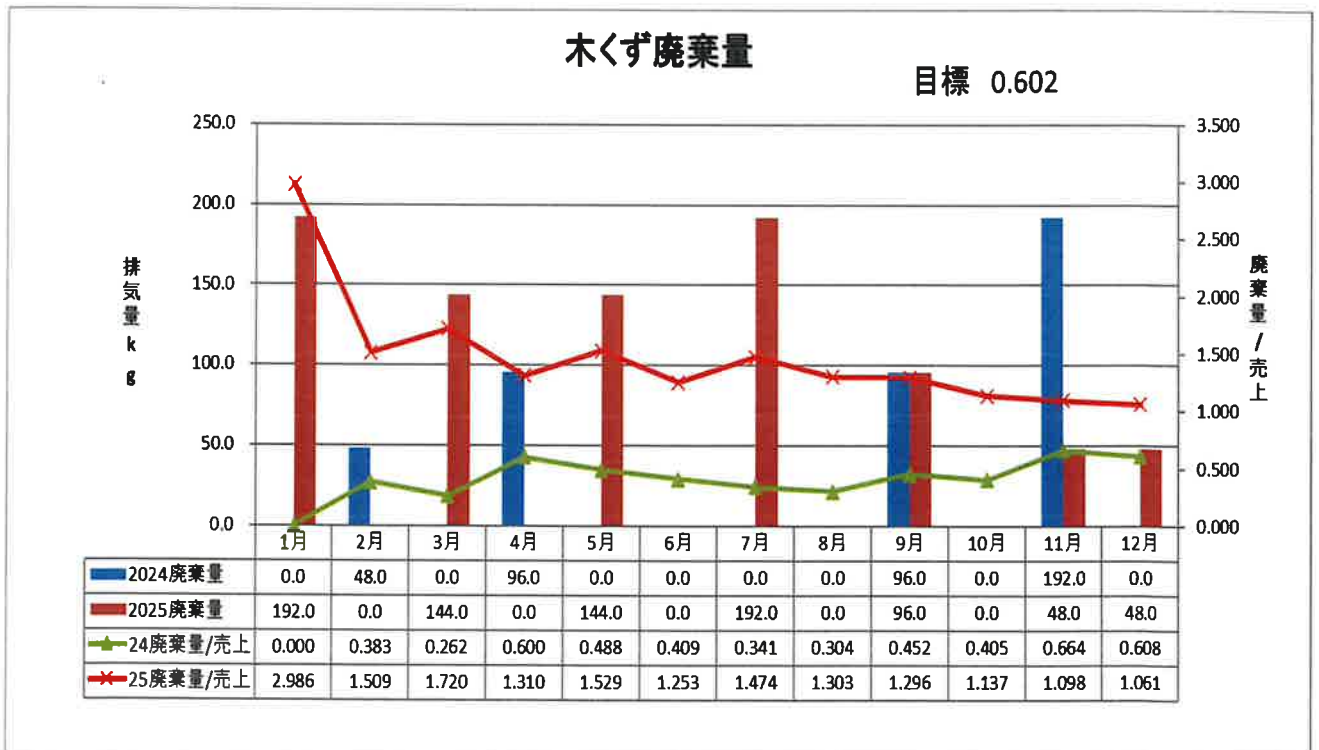
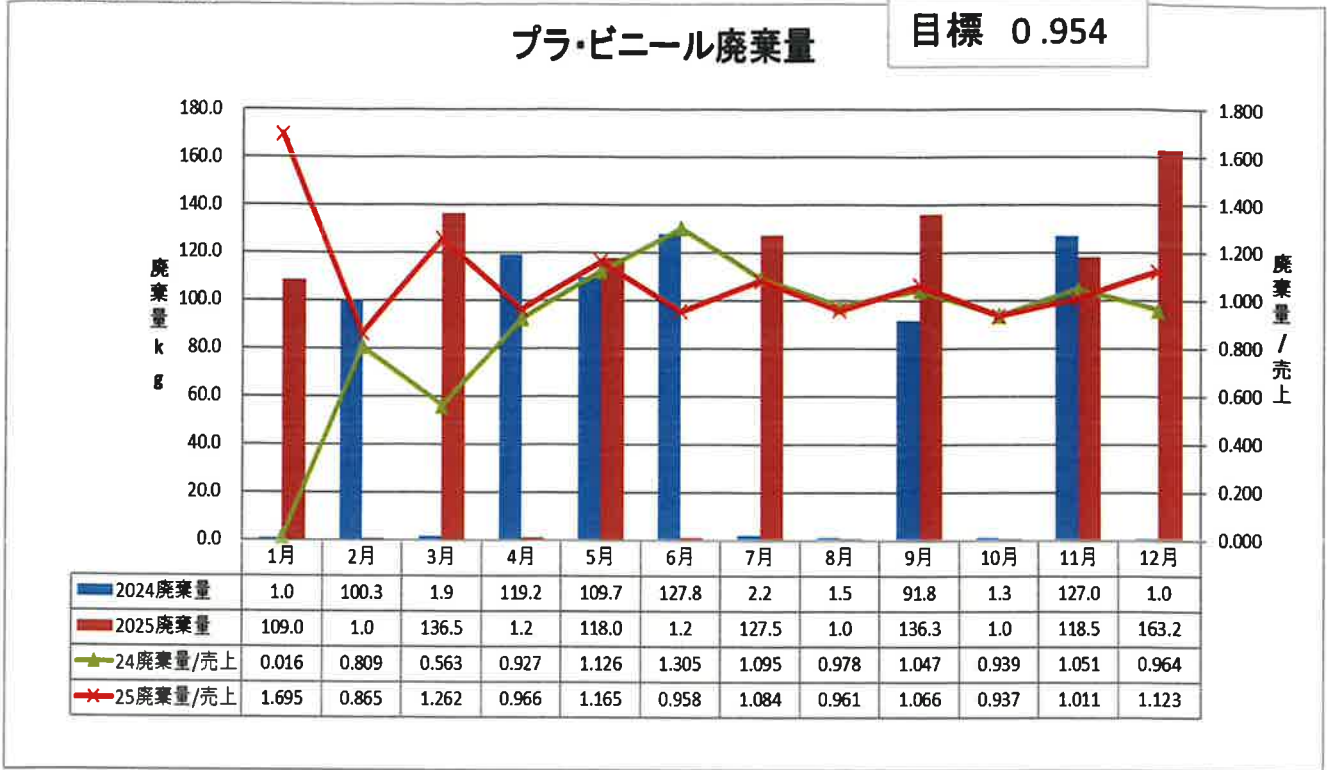


- ・バネ材廃棄量は2024年7.4tに対し、2025年4.7tと減少し、目標達成となった。
 スプリングの生産が増えたものの、ロットアウトになるような不具合も無く、不良率も改善した効果と思われる。
 歩留まりの悪い製品の生産を海外拠点に生産移管したことも要因としてあげられる。
- ・2026年も引き続き品質改善・生産性向上に力を入れ不良率改善につなげる。

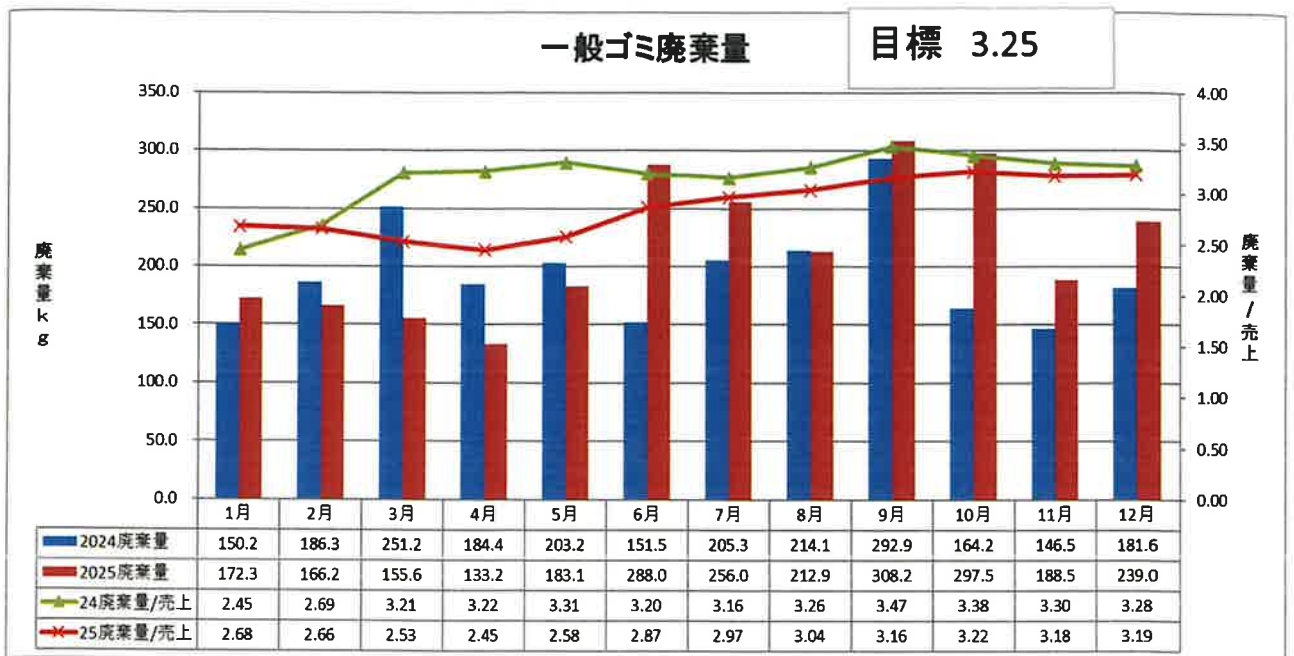


- ・銅線の廃棄量は、廃棄頻度が少ないため単純に比較はできないが、2024年0.44tに対し、
 2025年0.09tと減少し、目標達成となった。
- ・2026年もバネ同様に品質改善・生産性向上に力を入れ不良率改善につなげる。

4.廃棄物の削減

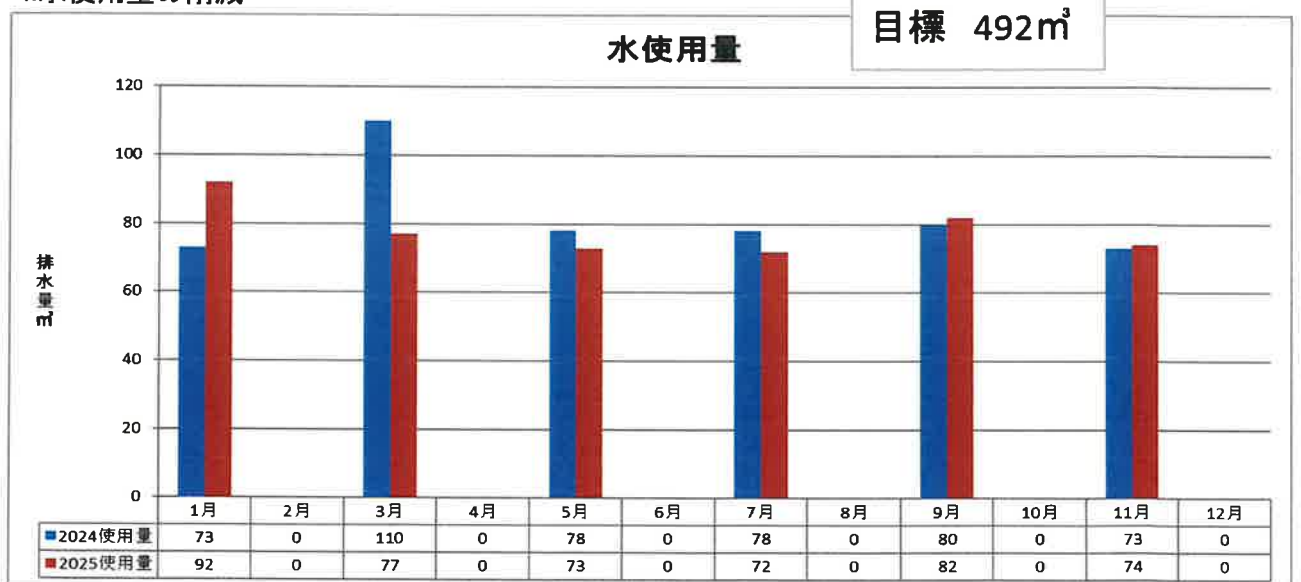


- ・プラごみ・木くずともに前年よりも廃棄量は増加し、目標未達成となった。
海外からの輸入が増えたことにより廃棄量が増えてしまった。
特に木くずについては輸入のパレットがダンボール製ではあるが接着剤が多く含まれているためリサイクルできず廃棄物となってしまっている。
- ・2026年も引き続き、分別をし、リサイクルに回す量を増やすようにする。
なるべく再利用をし、少しでも廃棄量を減らす。
また、ポリ箱での納入も進めていきたい。



- ・一般ゴミについては2024年2.3tに対して2025年は2.6tと増加したが、売上の増加もあり目標達成。
- ・2026年は返却できるものは返却をし、分別についても徹底し、廃棄量を削減する。

4. 水使用量の削減



- ・2024年排水量492m³に対し、2025年排水量は470m³とわずかだが減少した。
今年水漏れもなく、人員の減少もあり使用量も減った。
- ・2026年も、節水を呼びかけ注意喚起をする。

5. 化学物質の削減

- ・洗浄工程の必要な製品の生産が終了したため化学物質の使用は無し。
- ・2026年も生産することが無いので現状維持に努める。

6. その他

- ・敷地内・周辺道路の清掃



- ・防災訓練



環境関連法規への違反、訴訟等の有無

- ・環境関連法規制等の遵守状況の確認の結果、適用を受ける環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。
- ・過去3年間、関係機関等からの指摘及び訴訟もありませんでした。
- ・当社が適用を受ける環境法規制等は次の通りである。

適用を受ける環境法規制	取り組み内容・使用プロセス
廃棄物処理法	<ul style="list-style-type: none"> ・保管基準の遵守(表示等) ・産廃業者との委託契約、及び管理。許可証の入手。 ・マニフェストの交付、回収、保管(5年間)。交付状況報告書提出
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 6～8時 8～20時 20～23時 23～6時 55dB 60dB 55dB 50dB ・可能であれば遵守状況確認の為、測定するのが望ましい ・騒音レベル測定機
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 8～20時 20～8時 65dB 60dB ・可能であれば遵守状況確認の為、測定するのが望ましい ・振動レベル測定機
消防法、危険物関連	<ul style="list-style-type: none"> ・専門業者による消防用設備の定期点検の実施 ・防災活動、事故発生時の応急処置、通報 ・防災用設備の管理
安全衛生法	<ul style="list-style-type: none"> ・有機溶剤取り扱い資格の取得 ・局所排気装置の設置及び年1回の点検 ・有機溶剤等の使用の注意事項の掲示、有機溶剤の区分の表示
ELV指令	<ul style="list-style-type: none"> ・構成部品の再使用、再利用及びその他の形態による再生を目指す ・廃棄物の処分を低減 ・MSDS、調査票、証明書
RoHS指令	<ul style="list-style-type: none"> ・成分分析による基準値保証 ・MSDS、調査票、証明書
REACH指令	<ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の安全性や取扱いに関する情報の共有化 ・MSDS、調査票、証明書
神奈川県生活環境保全等に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 騒音・振動
栃木県生活環境保全等に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ・規制基準の遵守 騒音・振動・化学物質
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンの点検(3カ月ごと) ・コンプレッサー、スポットクーラーの点検
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> ・年4回以上の点検 ・指定機関による水質検査
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄時リサイクル券購入

代表者による評価と見直し

- ・2025年は売上が増えたこともありほとんどの項目で目標達成となった。
また、物価の高騰が続いており今まで以上にムダの削減が必要となる。
- ・2026年はこれまでと同様に、品質改善・作業効率向上・安全第一を心掛け、エコアクションを有効活用して環境負荷の低減をするとともに、経費削減にもつなげていくこと。
顧客からも環境に対する取り組みも要求事項の一つなので、アイデアをだして取り組んでもらいたい。